

No.22 夜店の骨董屋

客：おやじさん、何か珍しいものはねえかねえ？ここにもある、あそこにも有るといふもんじゃ面白くないからねえ。

爺：手紙なんぞどうです。鎮西八郎為朝が小野小町に出した恋文ってえのがありますかねえ。

客：為朝と小町じゃ時代が違うじゃねえか、そんなものが有るわけねえよ！

爺：有るわけがねえのが有るから面白いんだけんどねえ。

客：冗談言うねえ！他に何か気の利いたものはねえかい？

爺：それじゃ、こっちの「書」なんぞどうです？

客：これかい？何て書いてあるんだい？

爺：何てあるんですかねえ？古過ぎて読めないんすよ。

客は、ひょっとしてこれは小野東風の書じゃないか、しめしめなどと思って買って帰って、あくる朝明るいところで見ると、

「今川焼」

と書いてあった。

